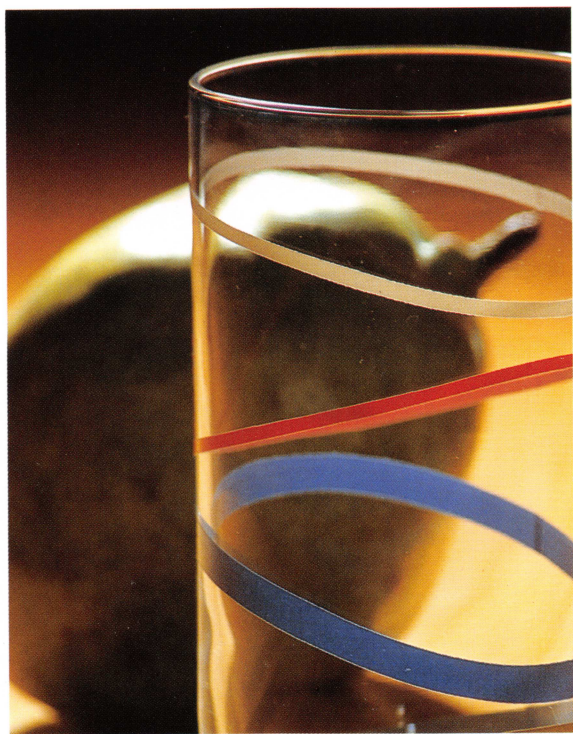


グラスウェアのためのパターンデザイン

山口まち子



ガラスの特性とデザイン

一般的にガラス食器というと、透明度の高い無地のシンプルなグラスや、カットグラスを好む傾向が強い。私自身も、キラキラ輝く神秘的なグラスを見てみると、つい何もしなくてもこのままで美しいと思ってしまう。

ガラスの一番大きな特性は、この透明感である。勿論、素材から受ける印象としての繊細さ、光を受けた時の透けた色合、涼しげな感触など、他にもたくさん挙げることができるが、ここでは、特に透明感を取りあげたい。

では、素材として十分に美しいのに、なぜグラスにパターンをつけるのか。それは、まったく違った世界を創り出すことができるからである。ワンポイントだけでも、グラスにつけると周辺の色が映りこみ、まわりととけ合っていたグラスが、突然、自己主張し始める。イメージの転換が簡単にできるのである。

まず、デザインをする前提として、透ける特性をうまく生かせば、他の素材では不可能なデザインができるのではないかと考え、向こう側がはっきり見えることを、おもしろさの材料として利用したいと思う。

それから、このパターンは、シンプルな円筒状のグラスに展開させることで考えていきたい。

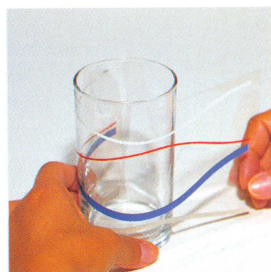
パターンの特徴

基本パターンは、グラスを斜め、または水平にカットしてできるリングである。

四色のリングで構成し、動きのある展開を試みた。要点は、リングとリングの間隔と角度、そしてリングの太さと色の組合せである。また細いラインは、少しの狂いで歪みが見えたりするので、慎重に処理したい。透けることはメリットとしての特性だが、つけたパターン全部が見えてしまい、ほんの少しのずれや歪みも、デザイン全体に影響するので要注意である。

グラスを使う時には必要のないことだが、展開図を作るため平面にするとリングは写真のような曲線になる。

このパターンの特徴は、斜めにカットされたリングが、見る角度によって変化することである。グラスを手に取り、くるくる回すとリングが回転し移動するようなおもしろさを感じる。



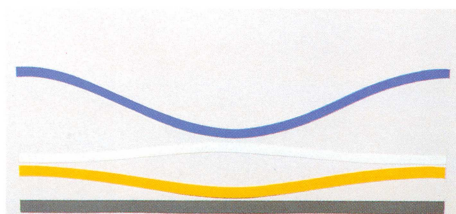
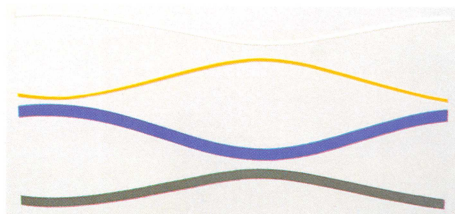
五種類のガラス

(角度を変えて2カット撮影したものと展開図)

No. 1



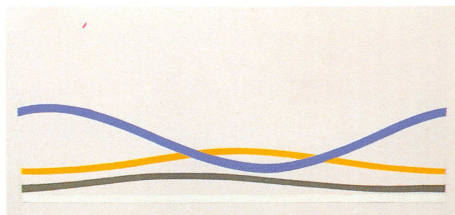
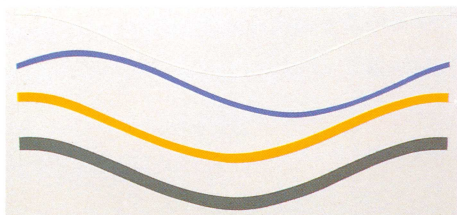
No. 2



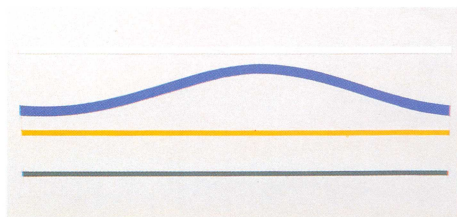
№ 3



№ 4



No. 5



ガラス食器としてのデザイン

食器のためのパターンとしては、特にグラスの場合、飲み物を注ぎ直接口をつけるものであるため、不快感は決してあってはならない。

この場合のパターンは、単純なリングであるため問題はないと思う。次に色だが、まずグラスから受ける印象として、明るい朝の光とヘルシーなフルーツのイメージを描き、クリアな配色を心掛けた。

他の配色も考えたが、五個のシリーズにすると、少しうるさくなったりして、多少問題がある。

この配色はガラスに相性の良いブルーを基調とし、イエロー、ホワイトの明るい色と、あまり主張しないグレーを合わせているが、イメージ通りで満足している。

色やパターンの好みは、人によってかなり激しく差が出る。決して万人好みの個性のないものにする必要はないが、むずかしい分野である。

一日のある時間を心地よく過ごすための生活器としてデザインしたいと考えている。

